

個人研究

— 共同研究と個人研究について —

我々は、一人ひとりの生徒の発達の遅れや障害の偏りに応じて、過去の経緯、これからの見通しを背景に、できれば1年間で達成できる見通しのある個人目標（個人へのねがい）を5月当初、学部の生徒全員に設定している。下の表23はその一例を示

すものである。

表 23 個人目標

- ・自信を持って、いろいろなことに最後まで取り組む子
- ・友だちの中で安定して生活し、頑張る活動に参加する子
- ・見通しを持ち、友だちと一緒に意欲的に取り組む子
- ・安定した気持でじっくり取り組む子
- ・友だちと一緒にいきいきと活動する子
- ・集団の中で、友だちと同じ活動に取り組める子
- ・すすんで表現し、最後までやりとげる子
- ・見通しを持っていろいろな活動に意欲的に取り組む子

この個人目標を達成するためには「どんな力を」「どんな場面で」「どんな内容や方法で」つけていくか、個に応じて特徴的に力点を置き、指導方針を立てる基本となるのが右図15に示す個人研究の構想図であり、個人研究は学部全体で取り組んだからだづくりの考え方や実践を共通基盤に、更に個に焦点化した取り組みの報告である。

本年度はからだづくりのまとめの年でもあり、過去の経緯の浮き彫りに心がけたが、担任にとってはこの半年間の取り組みが確かな手ごたえであり、本年度の取り組みを中心に述べる中で過去に目を向ける事例が多い。そのため、ややもすると身体的変容に目が向き、内面的な掘りさげまで中々及びにくい点はあるが、担任の対象児に対するのめり込みは強く、変容がこの力に負うところは大きいと考える。

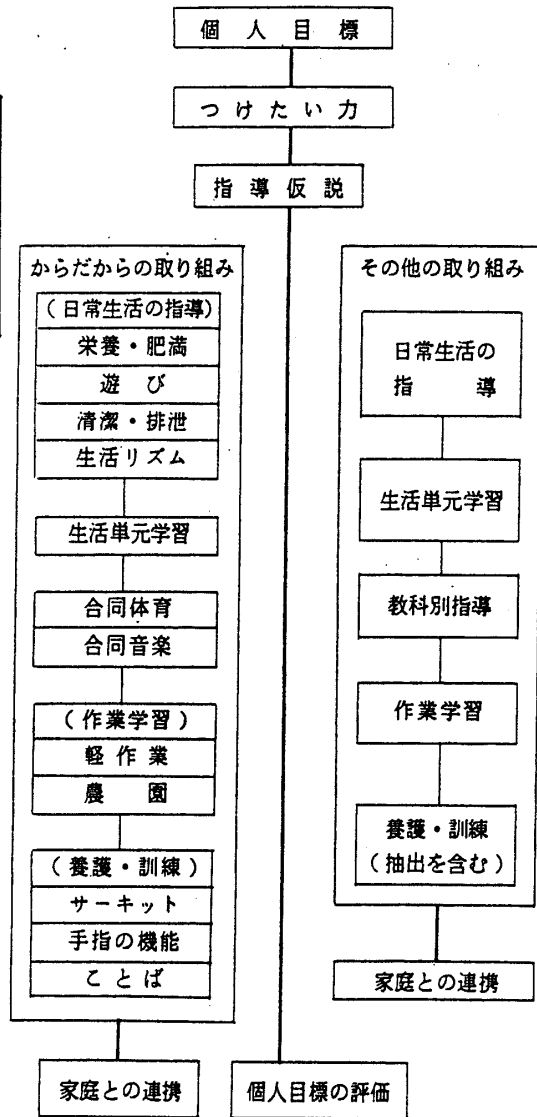


図15 個人研究の構想図

以下、「訓練だけでなく、むしろリラックスした雰囲気での学習によって、ぎこちない動きを改善していった」上田起久子の実践、「得意を生かして自信を持たせ、超肥満からくる行動の緩慢さや劣等感を克服させると同時に、運動や食事での自己管理能力を育てていった」臼田季微子の実践、「担任との信頼関係を支えに、好きな活動で最後までやり遂げさせ、頑張る力、やる気を育てていった」岸田富夫の実践、「昨年の取り組みで自信と明るさを得たM子に、少しずつ難しい課題を乗り越えさせ、確かな力にしていこうとした」出脇典子の実践、「自分なりの見通しとペースで活動しきらせ、その自信から明るさを引き出していった」小谷重之の実践、「どんどん大人のからだになりつつあるS男に、仕事や道具で更に大人扱いをし、より青年らしい姿を求めた」河田祐子の実践を報告する。